

2 桂川町から元気を！ 桂川町職員が人的支援として被災地へ

東 日本大震災の被災地、宮城県東松島市へ業務支援のため、本町職員の山口信宏（建設事業課）が、福岡県や県内市町村職員とともに派遣されました。

5月21日から29日まで、民間賃貸住宅の応急仮設住宅扱いに係る事務（宮城県がアパート等を民間から借り上げ、それを仮設住宅扱いとするための受付窓口業務）を担当。報告会では、「津波により、家や家族をなくした人たちが、涙ながらに話されると、聞くのにつらいものがありました。震災から2ヶ月以上が過ぎても、多くの方が避難生活をされていて、精神的にも肉体的にも大変疲れているようでした。しかし、被災地の皆さんは、立ち直ろうと頑張っています。私たちができることは、限られているかもしれませんが、今後も全国から、そして、桂川町からできる限りの支援が必要だと感じました。」と力強く報告されました。



▲ 井上町長（右）らから激励を受ける山口さん（左）



▲ 被災者のために今後も支援したいと語る山口さん（前列右）

実際に被災地の状況を見てきた人の話を聞くと、テレビや新聞で見るよりも、かなりひどいということが十分伝わってきます。現地では、たくさんの課題が解決されておらず、復興までには、まだまだ、時間がかかることを改めて感じました。

桂川町では、今後も被災地への人的支援を長期的に行います。また、町として、できる限りの支援を続けていきたいと考えています。

3 飯塚信用金庫 図書カードを寄付！

5 月18日、飯塚信用金庫の新開昭彦理事長が役場を訪問し、図書カード（20万円分）を寄附されました。

この図書カードの寄付は、平成4年12月に創立70周年の記念事業として始められたものです。本店、支店のある地域の小・中学校68校と11の市立・町立図書館に対して毎年行っており、今年で19回目となります。

図書カードは、町内の小・中学校と町立図書館の図書購入に使われます。



▲ 「子どもたちの健全育成に」と図書カードを渡す新開理事長（左）と「毎年ありがとうございます」と受取る井上町長（右）